

## 「手作りバード・コール(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

チコちゃんによると、「夏休みは先生たちが勉強する為にある」そうだ。私は「バード・コールづくり」の研究をしていた。これもまあ「勉強」の一つと言えるだろう。

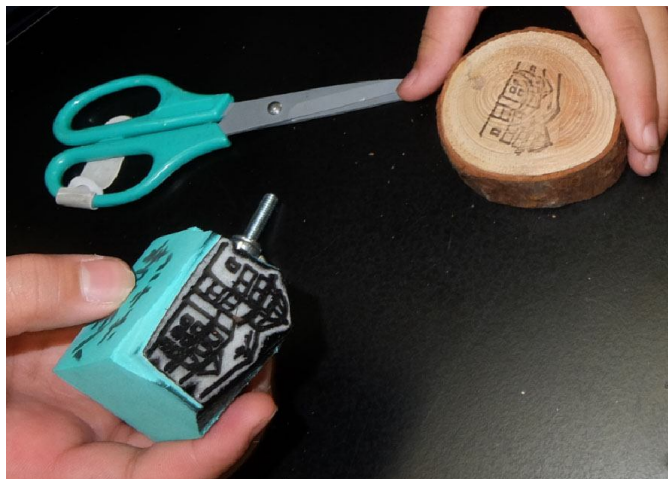


バード・コールは、木と金属が擦れ合う時に発する「軋み音」を楽しむ道具だ。木に開けた孔に、何か金属をねじ込む必要がある。市販のものの中で、安価で入手が容易なものが、この金属部品だ。「蝶ボルト」と呼ばれている。



実は苦勞してせっかく用意した、バード・コールの道具は、林間学校では活躍しなかった。3日間とも天気が良く、雨対の活動が必要なかったからだ。しかし、子どもたちに話すと「作りたいです!」と言うので、学校の活動で作ることにしたのだ。

楽しかった林間学校の記念になるように、木の両面に、スタンプを押せるようにした。このスタンプも私の手作りだ。「紫外線樹脂」という素材で、短時間で非常に簡単に作れる。台座は廃棄されたビート板(水泳の浮力補助具)を利用している。白樺湖の絵、宿舎の絵、八島湿原の絵、小海線の絵の4種類があり、両面に押すものを自由に選べる。



スタンプ台は通常のものでは、汗や雨で流れ落ちてしまうことがある。そこで「不滅インク」という、油性の特殊なものを使った。押印してすぐに乾く反面、スタンプ台そのものも乾きやすく、常に蓋をしてロックする必要がある。



これは「小海線」のスタンプを押したところ。今回の林間学校では2日目に「プロジェクト活動」という、課題別の活動を行った。その一つの班が「八ヶ岳高原プロジェクト」で、午前の小海線に乗車したのである。野辺山駅の置いたら、売れそうな雰囲気になった。

このスタンプを押す作業は、木に孔を開ける前でも、開けた後でも良い。もちろん、ネームペン(油性のペン)で自分で絵を描いても良い。また、カラーペンや色鉛筆で着色も可能で、そのあたりの造形要素が、自分らしい作品になる決め手となる。